

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 13 日現在

機関番号：32616

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24520489

研究課題名(和文)イラン未公刊楔形文字資料の文献学的研究

研究課題名(英文)Philological Studies on Unpublished Cuneiform Texts in Iran

研究代表者

森 若葉(Mori, Wakaha)

国土舘大学・イラク古代文化研究所・共同研究員

研究者番号：80419457

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：イランで所蔵される未公刊楔形文字資料について、博物館の許可のもと、研究調査、資料の解読等を行った。対象資料は紀元前3000年紀末から紀元前2000年紀のシュメール語、アッカド語、エラム語である。写真撮影に加え、連携研究者が3Dデータスキャニングを行った。口頭・論文発表のほか、国際シンポジウムで発表しプロシーディングスに原稿を発表した。扱ったうち、2点の資料はイラン出土の貴重なシュメール語資料である。1つは、この地域で初めてみつかった紀元前三千年紀末のシュメールウル第三王朝の初代の王ウルナンマの王碑文であり、もう1点は前二千年頃、エラム語圏で作成されたシュメール語行政記録である。

研究成果の概要(英文)：The National Museum of Iran (NMI) houses a lot of cuneiform documents excavated in Iran. I have investigated unpublished documents from Fars Province under the NMI's generous permission. I took photos and my collaborators scanned the tablets for 3D models. I studied the documents with collaborators. Part of the research has been published in 2016. This work covers two Sumerian inscriptions: One is a stone fragment from Fars Province, which turned out to be a royal inscription of Ur-Namma (Ur III State founder). The other is a fragment of a large tablet from Anshan and it seems to calculate the total amount of barley or beer. However, the technical terms and the description's style are slightly different from those of typical Sumerian records in the Mesopotamia. A possible reason is that a local scribe wrote it. The information of these two texts significantly contributes to recent discussions on the international relationship between Shimashki, Anshan, and the Ur III State.

研究分野：楔形文字学、言語学、シュメール学

キーワード：シュメール語 楔形文字 粘土板 メソポタミア文明 古代イラン アンシャン

## 1. 研究開始当初の背景

イランは、メソポタミア文明圏の西方に位置する。紀元前 3000 年紀からエラム文明が栄え、スサやアンシャンは、のちにアケメネス朝ペルシアの都の一つともなった。この地域はメソポタミア文明から多くの文化的影響を受け、南部メソポタミアの領域国家によって直接支配された時期もある。この結果、同地域では早くからイランの言語のほかにシュメール語やセム系アッカド語を用いる粘土板も数多く書かれ、それらは楔形文字研究にとって重要な資料群の一つとされる。

また、紀元前 3000 年紀後半から 2000 年紀前半にかけては、東にあったインダス文明との交流をになった重要な地域である。20 世紀初頭から欧米の発掘隊を中心に考古発掘が進められた。その結果、多くの粘土板が出土し、その一部がイラン国内で収蔵されている。さらに近年、イラン人研究者による発掘によって、多数の粘土板が出土しているが、現在イランに楔形文字専門家はいないため、未整理・未出版の状況におかれているものが多い。

代表者は 2011 年にイラン国立博物館のアクバルザデー氏(当時碑文部門長、その後、館長)から、イランで所蔵される未公開の楔形文字粘土板資料(シュメール語、アッカド語、エラム語のものが含まれると推定)について、研究調査の打診を受けた。

## 2. 研究の目的

未公開の楔形文字資料の調査が許可された貴重な経験を生かし、イランで所蔵されているイランの考古遺跡出土の楔形文字粘土板を読解し、楔形文字の翻字・翻訳をおこない、言語データとして提出する。写真撮影、手写コピーをおこなうとともに、連携研究者のグループとともに楔形文字粘土板のデータ保存に有効であると考えられる 3D モデルデータを作成し、その活用を検討する。

これら楔形文字資料を、アッカド語、シュメール語、エラム語の言語データとして、多くの分野の研究者が利用できるように公開することを目的とする。

## 3. 研究の方法

具体的には、粘土板文書の状態に応じて 3D モデル、写真撮影、手写コピーのいずれかのデータを選択し、それに翻字・翻訳、文献学的・言語学的解説を付けた形での出版を行う。

楔形文字研究に 3D モデリング技術を活用し、未公開資料を出版する研究は、伝統的な分野に新しい可能性を開くものである。3D モデルは粘土板資料としては極めて有用性が高いが、その活用はごく一部にとどまっている。粘土板文書の研究はこれまで基本的に

写真ないし手写コピーに頼らざるをえなかった。しかしながら、写真は不鮮明な場合があり、粘土板の側面部は曲面であるため、うまく撮影できないことが多い。そのためより一般的には研究資料として手写コピーが用いられるが、常に正確な手写が得られるわけではない。そのため、研究者は最終的には、現地で粘土板を校訂する必要があった。これに対し、3D モデルはコンピュータ上で自由に回転でき、光源を自由に換えられるため、実物を手に取るのときわめて近い形で資料を確認できる。楔形文字は粘土板に凹状に刻まれ、しかも粘土板表面が必ずしも平らではないために、写真撮影では、判読困難な箇所が生じることが多い。3D デジタルデータはこの問題を解消し、さらに写真では写りにくい印章印影も確認可能にする。

## 4. 研究成果

テヘランにあるイラン国立博物館が所蔵する未公開の楔形文字資料について、同博物館の許可のもと、現地において、資料の解読および研究調査を行った。調査した資料は、紀元前 3000 年紀末から紀元前 2000 年紀のもので、言語についてはシュメール語、アッカド語、エラム語のものが含まれていた。テヘランでは、写真撮影、手写コピーを行うほか、連携研究者のもと、研究協力者に 3D データ化のスキャニングを行ってもらった。シュメール研究会等国内の学会、研究会で口頭発表を行ったほか、国際シンポジウム(京都大学、2014 年 12 月)での発表し、2016 年春にプロシーディングスに原稿を発表した。

プロシーディングスで扱った 2 点の資料は、イランで出土した内容的に重要なシュメール語資料である。1 つは、紀元前三千年紀末のシュメール・ウル第三王朝の初代の王ウルナンマの王碑文である。ウル第三王朝の王碑文がメソポタミア文明中心部にあるシュメールから遠く離れたイラン・ファルス州で発見されたのは初めてである。もう 1 点は、紀元前二千年頃、エラム語圏であったイランの都市アンシャン(マルヤン)で作成されたシュメール語行政記録である。また、エラム語圏で作成されたシュメール語行政文書は非常にまれな資料である。

本研究では、従来の手法である、写真、手写コピーのほか、文化財科学の研究者とともに 3D モデルの活用について共同研究を行った。どのような 3D モデルを作成すれば状態の悪い粘土板の文字解読に有効な資料となるか検討を重ねたうえで、3D モデルを作成してもらった。その結果、表面の状態の悪い粘土板資料の文字解読については、3D モデルが非常に有用であることがわかった。作成

した3Dモデルについては、すでに2015年秋に博物館側に提出しているが、今後その活用方法についてひきつづき検討の予定である。

エラム語を中心とするほかの資料については、連携研究者および研究協力者とともに現在発表を準備中である。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計2件)

森 若葉「イラン国立博物館所蔵マルヤン出土資料文献調査経過報告」『西南アジア研究』第76号。2012年。32-41頁。

渡邊俊祐・寺村裕史・津村宏臣「3次元レーザースキャナの精度・確度検証 —イラン国立博物館所蔵粘土板資料を対象として—」日本文化財科学会。第29回大会講演論文集。29巻。2012年。106-107。

[学会発表](計6件)

森 若葉「シュメール語文法研究の方法と課題 - 動詞接頭辞の解釈を例に - 」日本言語学会第151回大会「古代文字文献を資料とした死言語の文法研究 - 中エジプト語・契丹語・シュメール語・西夏語の事例から - 」2015年11月29日、名古屋大学。

森 若葉「アンシャン出土のシュメール語史料」第58回シュメール研究会。2015年6月28日。京都大学大学院文学研究科附属ユーラシア文化研究センター。

森 若葉「アンシャン(イラン)出土のシュメール語資料—楔形文字断片資料の読解—粘土板への3Dモデリング・写真データの利用」京都大学言語学懇話会 第96回例会。2014年12月20日。京都大学文学部。

Mori, W. and Maekawa, K., "A Sumerian Royal Inscription and an Administrative Record from Ur III Anshan," *Ancient Iran: New Perspectives from Archaeology and Cuneiform*

*Studies*. Dec.7. 2014. Center for Eurasian Cultural Studies. Kyoto University (Kyoto City, Kyoto).

Watanabe, Sh. and Teramura, H., "3D Modelling of the Cuneiform Tablets and the Bricks possessed by the National Museum of Iran." *Ancient Iran: New Perspectives from Archaeology and Cuneiform Studies*. Dec. 6-7, 2014. Center for Eurasian Cultural Studies. Kyoto University (Kyoto City, Kyoto).

松島英子・森 若葉「イラン国立博物館所蔵マルヤン資料について」第54回シュメール研究会。2012年5月26日。早稲田大学文学部。

[図書](計8件)

Mori, W. "Two Sumerian Cuneiform Texts from the National Museum of Iran." *Ancient Iran: New Perspectives from Archaeology and Cuneiform Studies. Proceedings of the International Colloquium held at the Center for Eurasian Cultural Studies. Kyoto University, December 6-7, 2014*. Nakanishi Printing Co. 2016. 173-179.

Watanabe, Sh. and Teramura, H. "3D Modelling of the Cuneiform Tablets and the Bricks possessed by the National Museum of Iran." *Ancient Iran: New Perspectives from Archaeology and Cuneiform Studies. Proceedings of the International Colloquium held at the Center for Eurasian Cultural Studies. Kyoto University, December 6-7, 2014*. Nakanishi Printing Co. 2016. 173-179.

森 若葉 (分担執筆)「危機言語」『私たちの日本語研究 - 問題のありかと研究のあり方』定延利之 編。朝倉書店。2015年。86-90頁。

森 若葉 (分担執筆)「シュメール楔形文字」『世界の文字事典』庄司博史 編。丸善出版。2014年。14-18頁。

森 若葉 (分担執筆)「アッカド語」、「ウガリット文字」、「楔形文字」、「シュメール語」、「象形文字」、「ヘブライ語」ほか。『日本語学大事典』佐藤武義他 編。朝倉書

店. 2014 年. 29-30 頁、142 頁、595-596 頁、  
1044-1045 頁、1058 頁、1817 頁ほか.

森 若葉 (分担執筆) 「メソポタミアと  
の交流」『インダス 南アジア基層世界を探  
る』長田俊樹 編. 京都大学学術出版会. 2013  
年. 100-107 頁.

森 若葉 (分担執筆・翻訳) 「古代におけ  
る言葉の世界のかすかな痕跡：言語と世界の  
古代史 (第 3 部)」『絶滅言語—少数言語の消  
滅で人類は何を失うのか』ニコラス・エヴァ  
ンズ著. 地球研ライブラリー. 京都大学学術  
出版会. 2012 年. 151-262 頁 (原著: Nicholas  
Evans, Dying Words. Wiley-Blackwell,  
Oxford)

〔産業財産権〕

○出願状況 (計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

○取得状況 (計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

森 若葉 (MORI Wakaha)  
国土館大学イラク古代文化研究所・共同  
研究員  
研究者番号: 80419457

(2) 研究分担者

( )

研究者番号：

(3) 連携研究者

寺村裕史 (TERAMURA Hirofumi)  
国立民族学博物館文化資源研究センター・  
助教

研究者番号: 10455230